

の五郎兵衛どんが薪取りの帰りに馬がガケ下に落ち、ケガをして
いるのに出合いました。

「甚造兵衛どん、なんかならないものだべか」

「馬もろとも上げてやるべえ」といって谷におり、薪一段つ
けたままの馬ごと肩にのせ、テクテクとがけを登り、山を下り、
成田まで背負ってきました。

第五話 草 角 力

今日は梅田の熊野神社のお祭りです。笛やたいこの音も賑やか
に、境内には草角力がたちました。

安積郡の安積山という角力取りが関をはって強いこと、その強
いこと誰れも勝てません。

いよいよ役角力ということになりましたが三も五もとられ、い
よいよ七となりました。六人まで投げ出され七人目に土俵に上る
ものがありません。

これを見ていた甚造兵衛は「役角力を全部取る方も取る方だが
取られ方も不芸ねえやあ。」といいながら土俵に上りました。

「甚造兵衛どん、がんばれ」

「負けるな安積山！」

両方の声援はものすごく、大層な人気でありました。二人はガ
ブリ四つに組みましたが一呼吸して甚造兵衛は安積山を高々とつ
り上げて土俵の外に投げ出しました。

「やっぱり甚造兵衛は強い、たいしたもんだ、日本一の力持ちだ」
とみんながはやしたてました。

この時一人の小柄な男が土俵の上に現われて「甚造兵衛どんは
強い強いとみんながいうが、一体全体どの位に強いんだおれも
一回角力を取って見てえ」と言って最後の役角力の七を争うこ
とになりました。

「いやあー」というかけ声と共にガブリ四つに組みましたが、
たちまちのうちに小柄な男は甚造兵衛に高々と頭の上につり上げ
られてしまいました。

「さあー、さあー、小人の兄ちゃん、お前さんの好きな方はど
ちらだい。一里も遠い方へ投げ飛ばしてやるべえよ」といい、
さもじまん気に意気ようようと土俵の中央で頭の上の小男に呼び
かけました。

すると頭の上の小男は「景色は満点、甚造兵衛どん、勝負は決
まった、お前さんの負けだ。投げられるものなら投げてみな。そ
の前にお前さんの身が土俵の上に倒れておるわよアハハハ」とい
いました。

甚造兵衛は高々と両手でもち上げてはみたもののどうにもなら
ず、土俵の真中に立ったまま動けないで立往生となりました。

そのうち目はつりあがり、玉の様な汗をポタポタとしたり落
ち遂にへナへナと腰からくずれてしまいました。

これを見ていた沢山の村々の人々はアッッと驚きアッケにとら
れ不思議な勝負に一言も何にも誰れもいみませんでした。

その後この角力の勝負の話が出ると決して甚造兵衛どんはこう
言いました。

「あの時のあの男の目方（重さ）のあることと言ったら口にも
話にも語れねえ。おれの腰が折れそうだったよ。あの男は人間じ
やあねえよ。きっとあれは熊野様だったよ」としみじみ語るの